

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を家訓に表している。 家訓 「あるがままに、楽しく、ゆったりと」		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの中で、「住み慣れた地域で安心して健やかに暮らせる老後」を実践している。常に親しみを持って、さんづけ呼称を行い、笑顔の絶えない日常を目標として取り組んでいる。入居者や地域への挨拶を行い親しみを持った関係作りに努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	年に1～2度の家族面談を行い、「安心して暮らせる老後」を実践している。地域においても公民館を中心に機会ある毎に啓蒙している。		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時の挨拶やゴミ拾い、さわやかテラスの畑で収穫した野菜を近所に配ったりして、お付き合いしている。回覧板を回しテラスでの行事をお知らせし参加して頂くようにしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、運動会、防災訓練、カラオケ教室、グランドゴルフ等に参加したり、逆にテラスの夏祭りに参加して頂いたり、防災訓練では地域の消防団の協力を頂いている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月1回のカンファレンスの場でスタッフ全員で話し合っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己を見直す自己評価と、外部からの評価の大切さをカンファレンスにおいて互いに話し合い、改善の必要があれば具体的に行動を起こしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	テラスでの日々の暮らしと現状を報告し、互いに意見を出し合い、それをケアに活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護関係は無論であるが、大きく福祉を考え、介護サービス関係や健康保険関係また生活保護関係などと接触してサービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	「さわやかテラス」の代表が権利擁護や成年後見人のボランティア団体であるNPO「高齢者・障害者安心サポートネット」の理事を勤めており、職員は認知症高齢者を護る勉強を行なっている。また職員の一人が成年後見人のボランティア活動を行なっている。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスにおいて、定期的に研修を行なっている。身体拘束・言葉の拘束・薬の拘束などあってはならないことであり研修を重ねている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族に重要事項等契約内容を書面で示しながら疑問点が無い様十分に説明を行なっている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの申し出は日々の会話の中で、又入居者の表情から職員が察知するようにしている。そして入居者からの意見や要望は記録に残し、都度介護ケアに反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶり・健康状態は家族の来訪時に報告している。又電話での報告も適宜行なっている。毎日の記録を家族に見て頂いて家族の心配や不安が無い様にしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは常に対話を持っている。家族からの意見や要望があった段階でケアや運営に反映できるようにしている。意見や要望は連絡帳に記載し情報を共有し職員が共通した認識に立って行動できる体制である。また行政の窓口もお知らせしており家族が気安く意見要望を言えるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は意見提案があれば責任者や代表に随時話しができる体制にある。代表は常に入居者と家族と職員に接触を持っている。職員も責任者も代表も「より良いケア」を目指しているので互いの意見提案は極めて有意義であり、良き意見提案は実態に則し反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の諸変化には、責任者が勤務調整を行い職員の確保は問題なく行なっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとって馴染みの職員が一番であるので、その配慮のもと異動を行なっている。止むを得ない離職においても最小限に抑える努力をしている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢は問わず採用している。未経験者も採用の対象としている。従って「さわやかテラス」の職員は20代30代40代50代60代にわたっている。職員は地域活動や自己研鑽を自由に行なっている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権についての教育は、カンファレンスの場で折に触れ行なっている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当社はグループホーム3事業所と小規模多機能型居宅介護施設を2事業所運営しているので、教育は5つの事業所を一つと考え年間スケジュールを組み、職員の段階に則して育成研修を行なっている。経験年数に応じたグループの研修、リーダークラスの研修等である。又外部講習・講演会等も勤務ローテーションに組み入れ業務として積極的に参加している。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には常に参加し、地域その他施設との交流の中で、互いに施設訪問を行いサービスの向上に努めている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	代表は管理者や職員とのコミュニケーションを大切にし、管理者もまた職員との対話を重視している。歓送迎会や行事の後の慰労会などを行なっている。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	賞賛すべき職員の努力や実績はカンファレンスの場所で職員全員に知らしめている。資質が伴えばリーダーや責任者補佐に抜擢する人事制度があり職員が向上心を持って勤務できる職場である。		
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居にあたっては、本人の住まいに伺い本人と直接話しをして本人の思いを聴くことを感じることを重視している。そしてまた本人の歴史を知る事も本人にとって最良のケアの基であり信頼関係を築くスタートとしている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来訪時に聴いたり、責任者の連絡先(携帯番号)をお伝えして、いつでも話せるようにしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	相談を受けたとき当然に必要なとしていることを見 極めてアドバイスをを行い、本人にとって最も良き サービスを進め対応している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、 サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	本人そして家族が納得して初めてケアがスタート するものであり、そのために入居の雰囲気 が徐々に馴染めるように「さわやかテラス」に家族 と共に何回か遊びに来てもらったりと工夫もして いる。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう 関係を築いている	職員は家族にはなれないが、限りなく家族に近 づけることはできるとの思いから「一緒に過して いく、暮らしをともにする」と言うことを常に念頭 におき支えあう関係を築いている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	認知症のケアは特に家族と共にしていくことが本人に とって「あるがままに、楽しく、ゆったりと」暮らしていくこと に繋がってくる。このことを日々家族との会話の中で互い に認識し、一緒に本人を支えていく関係を作っている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	上記同様、本人と家族があつての支援、ケアで あることを念頭に、職員は本人と家族のより良 い関係保持への支援を行なっている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	本人の好みの道具は入居時に持ち込みしてい ただいている。希望される場所へ出掛けたり、馴染 みの人の来訪も歓迎している。家族の協力のも と自由に暮らされている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	「さわやかテラス」スタッフの心得の一つに「さり げない気配り・目配り・心配り」を掲げ実践してい る。孤立や入居者同士の仲たがいの場合も職 員がさりげなくその場の雰囲気を和ませ仲を取り 持っている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大 切にしている	退居された方の家族が定期的にボランティアと してマンドリン演奏、ケアメイク等をしてくださって いる。新聞「さわやか通信」などを定期的に送付 している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「さわやかテラス」のスタッフの心得で、基本は何事も入居者と一緒に。また、許可、同意を得ること。本人、家族の希望を重視すること。を掲げ、行動の指針としてケアにあたっている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握した情報は職員が共有しケアの統一を図り、チームケアに取り組んでいる。更に、3つのチームに分けより深く理解し、チームケア、全体でのケアに生かしている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	「さわやかテラス」では、毎日一人ひとりの暮らしを把握する為に、その時々での過ごし方・心身状態を記録し入居者のケアに活かしている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の思いに基づいた介護計画書を本人・家族・かかりつけ医の意見を反映させた計画書を作成している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況変化には即刻対応し、家族、医師と話し合い、連絡帳を通して全職員が把握できるようにしている。それに伴い、介護計画書も随時見直している。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項番37記載のように、時間を追って記録している。そして職員が情報を共有し介護計画を進めたり、また見直したりしてその時々での状況に応じたケアを実践している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームは入居が基本であるが、家族の都合で外出、外泊される事もある。日課の買い物は、入居者と一緒に行っている。本人から要望があればドライブや買い物また外食もその都度対応している。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の消防訓練には訓練を通して入居者と消防士とのふれあいもある。 民生委員や区長また市役所担当課・地域包括支援センター、警察、交通機関にも協力頂いている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームは入居生活が基本であり、介護保険で利用できる他のサービスを利用されることはないが、好きな趣味をされたり、歌や散歩等々自由に「あるがままに、楽しく、ゆったりと」毎日を過ごされている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1度の地域運営推進会議の席上で地域包括支援センターとの話し合いの機会があり権利擁護やケアマネジメントなどについて協働している。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は月2回の往診も含めて、本人と家族の希望を大切に、職員が付き添って受診している。 家族が付き添われる事もあり、本人・家族の意向どおり対応している。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	「さわやかテラス」のかかりつけ医と連携をとりながら、認知症に関する診断や治療が受けられるように支援体制は整っている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の指示のもと、24時間訪問看護ステーションとの医療連携をとっており、支援はできている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医が病院関係者と常に連絡や情報交換が出来る関係にあり、かかりつけ医自身も早期退院の姿勢を表明しているので、過去の入院時においても家族の安心を得られている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「さわやかテラス」は本人・家族の希望に応じて看取りを行なっている。 本人の望んでいる終末期のあり方を日々の生活の中で把握し、それに近づけるように、取り組んでいる。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人と家族の意思を十分に理解し、できる限りの対応を家族や医師、訪問看護ステーションと職員が連携を取り、実践している。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居、退去に拘らず環境が変わるということは、本人にとって大変不安なことである。その事を十分認識し、家族と共に本人に理解して頂く様話をしたり、入居以前からの関わりで馴染みの関係を築いたり、ダメージを極力感じないような対応に努めている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを大切に、訪室時や外出時など常に許可・同意を得ている。言葉遣いにも敏感に反応されることも念頭におき対応している。 守秘義務においては、職員に教育周知徹底している。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は入居者の思いを組み取る為に、「スタッフの心得」にある『入居者の話に耳をかたむけること』～入居者の言動・行動に目を配り、本当に言おうとされていることに目線を落とし、耳を傾ける～を実践している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はスタッフの心得にある『本人の望まれることを後回しにしない』『無理強いはいしない』を実践し希望に沿った支援をしている。 また、決まったスケジュールはなく、それぞれの生活時間を大切にして頂いている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	鏡台や化粧道具を持たれており、好みのものを着られたり、身につけられている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が楽しめる様、皆で一緒に作っていくことを大切にしている。下ごしらえをされる方、配膳、盛り付けをしてくださる方など、食事までの賑やかな時間も大切にしている。職員も一緒に食事を取り、食欲や嚥下の見守りも行いながら楽しい食事を心掛けている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好の制限はしていない。健康状態との兼ねあわせが必要な場合は、かかりつけ医や家族と相談して本人の望まれる支援を行なっている。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の気持ちを大切にし、状態に合わせた支援を行なっている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しみにされている方もいらっしゃる中で、希望に添えるように支援を行なっている。また、1人で入浴される方や介助の必要な方などは、個別での対応を行なっている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜に不安なく休めるよう安心できる雰囲気作りを行なっている。日中もリビングや居室などで安らげる空間作りに努めている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテン開け、カレンダーめくり、タオル交換、読書等ご本人が持っているものを自由に表現できるように支援している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力に応じて対応している。日常の費用(薬代など)は、ご家族からの預かり出納帳に記載し、入出金の管理を行い家族に領収書と出納長の支出内容を確認して頂いている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブなどは日々その時々で希望に沿った支援を行なっている。また、買い物などの外出も同様。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画を組んで、初詣やお花見、季節の景色見学など、ご家族と一緒に出掛け楽しい時間を過している。ご本人お一人での外出は、携帯電話で連絡を取り合うなど、その方に合わせて支援している。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも自由にできるようにしており、手紙は希望に応じて投函している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	共有空間でも、家族や馴染みの方が居心地良く過されている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体状況、行動を把握し、生活空間や環境の工夫に努め拘束が無いようにしている。鍵を掛けず、自由に入出入りが出来る様にしている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に人の出入りには気を配り、安心して暮らせるよう配慮している。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご本人のプライバシーの配慮をしつつ、一人ひとりの見守りを行なっている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	見守りを徹底する事で危険を防ぐようにしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起こりかけた時や事故の際には、ヒヤリハットの記入を徹底しており事故経緯等を見直し、再発防止に努めている。特変、急変に関しては社内外での研修に参加しカンファレンスで情報を共有し、学ぶ機会を作っている。災害に関しては入居者の方を含めての訓練を行なっている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時、急変時の為の対応マニュアルを置いている。また、内容も理解している。救急対応の講習会を受け、応急処置対応訓練を積んでいる。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間帯、災害の種類、火災の発生場所等あらゆる状況を想定し訓練を行なっている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族との連絡を密に行っており、共にご本人の身体状況の把握に努め、本人らしい生活が送れるよう支援している。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化や表情の変化に至るまで、毎日時間を追って記録し情報を共有しているので即刻対応できる状態にある。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用する薬の目的や効果、副作用、用法用量など承知しており一人ひとりがかかりつけ医の指示通りの服薬が出来るように支援し、症状の変化も確認している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の影響を承知しており、飲み物や食べ物の工夫をしたり体を動かす工夫をしている。1日2回水分摂取と便秘解消の為寒天を食べて頂いている。また、かかりつけ医との連絡も毎日随時出来る体制で意見、アドバイスもある。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの食後の口腔状態により対応している。手伝いが必要な場合、ご本人でされる場合等、力量に応じた支援をしている。月2回の訪問歯科を利用し、歯科医や衛生士のアドバイスも受けている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランス、水分補給は大切なことであり、一人ひとりの習慣や体調も考慮して飲みやすい物(お茶やスポーツ飲料、ジュース等)、取りやすい状態(寒天、トロミ等)で取って頂いている。日々の食事や水分量は記録に残している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者方・職員共に手洗い、うがいの徹底。かかりつけ医の指導のもと、インフルエンザ予防接種等実行している。食事の際は毎回手拭タオルを用意し、手洗いが難しい方に対しても清潔を保てるよう支援している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所調理用具等の衛生管理は、毎日清潔を保つために消毒している。その日の食材は新鮮なものを毎日購入している。個人で食べ物を購入される方に関しては期限など確認声掛けを行っている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は施錠しておらず、家族の方は自由に出入りされている。近隣の方々も普通の家庭を訪ねるように、親しみを持って来られている。鉢植えを置いたり、四季を感じられる小物を置くなど、明るく出入りしやすい雰囲気になっている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節合わせ床に引くマットゴザを使い分け、季節の花やその時々行事ごとなどにちなんだ飾り付けを行い四季を感じられるよう工夫している。共同のスペースは雑然となりがちなので、常に整理整頓を心掛けている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席、ソファなど寛ぐことの出来るスペースは確保されている。そこを利用し個人で寛がれたり皆さんで楽しめたりと、ゆっくりと過ごせるようになっている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前の生活で使用されていた馴染みのものを持ってきて頂き、出来るだけ以前の生活空間に近づけるようにしている。ご本人の身体能力に合わせ自立した生活を送れるよう工夫している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	加湿に気を配り、定期的な換気を行っている。体温調節の出来ない方の事も考慮し、温度調節をおこなっている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はご本人に合わせて家具に配置を決め、手すりにも工夫をこらし、身体機能を存分に生かせるようにしている。共有空間でも同様。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの認知度や身体能力を考慮して接している。認知症があっても「あるがままに 楽しく ゆったりと」自立して生活していけるよう、工夫し対応している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内の畑では、入居者方と一緒に野菜作りをし、収穫している。外気浴の際も利用され、憩の場となっている。		

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2／3くらいの 《 》③利用者の1／3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2／3くらいと 《 》③家族の1／3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2／3くらいが 《 》③職員の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2／3くらいが 《 》③家族等の1／3くらいが 《 》④ほとんどできていない